

〔茶窓閒話_下〕ノ貫といひしもの、京都の住人にて、數寄道の逸人なりけり。略○中 或時休師利休_千日比
聞及しものなり、いざ尋んとて、二三子を携へ、其許とひしが、家のそとも石井あり、直に街道に
て、人馬のちりほこり立こみて、いふせかりしを見て、此水にて茶はのまれず、各歸らんといひし
を、ノ榎聞つけ、表へ出て呼かへし、茶の水は、筧にて取が、それでも御歸り有かと、高聲にてよばは
りければ、休師それならばとて、人々ともなひ立かへり、舊知のごとく、またしくかたりて、それよ
り交深かりしとなん。